

水産試験場大島分場(S30.12.1~S31.3)

瀬魚一本釣漁業試験

◎ 趣旨

現在那島内に於ける漁業では鰐一本釣漁業の外見るべきものもなく、小数の瀬魚一本釣漁業も殆んどが小規模のもので大きな成果は上つていない。近年鰐漁業も下降の一途を辿つており又瀬魚一本釣漁業にしても一部の船を除いては殆んどが極く沿岸に定着しておりその発展は既に限界に来ているものと考えられる。従つてこれら等の船の運営が極めて困難な状態にあるので年間を通じて合理的な漁業の整備化を図るため、資源的見地とと思はれ、又比較的広範な大島近海に於ける瀬魚一本釣漁業を取り上げ、該漁業の反応、技術の向上、漁場の開拓を目的とし、漁船規模の中型化、沖合進出に資せんとするものである。

◎ 試験方法

(一) 期間 第一次 昭和31年2月26日～3月6日

二 3月18日～3月23日

(二) 使用船 試験船かもめ丸(19.59 Ton 50 HP)、103型魚群探知機装備

(三) 乗組員 第一次 調査員1名 船員2名 古仁屋高校実習生5名

二 2人

(四) 漁具 熊毛水産指導所において使用していた瀬魚一本釣具6鉢

(五) 氷餌料 第一次 碎氷2Ton冷凍イカ20kg×第二次碎氷4.5Ton塩蔵×子方4kg

(六) 游獲量 第一次 チビキ、アラ、マツ他 計20×400匁

第二次 チビキ、アラ、タイ他 計82×400匁

(七) 経過

| 日 | 月 | 時 | 氣象 | | | | | 海況 | | | | 漁獲 | | | | 漁場番号 |
|-------|------|-------|----|------|------|-----|----|------|----|-----|-----|-----------------------|------|-------------|-----|------|
| | | | 天候 | 気温 | 海压 | 風向 | 風速 | 水温 | 波浪 | うねり | 潮流 | ちびき | まつ | あら | 計 | |
| 2. 26 | 14.2 | 08:00 | 0 | 14.0 | 1020 | SE | 4 | 20.6 | 14 | 4 | | | | 8尾 | 8尾 | ①⑥ |
| 27 | 15.2 | " | Y | 15.0 | 1008 | W | 6 | | 5 | 4 | | | | | | |
| 28 | 16.2 | " | 0 | 13.0 | 1013 | NW | 5 | | 4 | 3 | | | | | | |
| 29 | 17.2 | " | 0 | 5.0 | 1019 | " | 7 | | 6 | 4 | | | | | | |
| 3. 1 | 18.2 | " | 0 | 10.0 | 1018 | " | 6 | | 5 | 3 | NE | | | | | |
| 2 | 19.2 | " | 0 | 11.5 | 1024 | " | 3 | | 3 | 3 | | | 11" | 11" | ③④ | |
| 3 | 20.2 | 10:00 | K | 13.0 | 1021 | ESE | 2 | | 2 | 2 | | | 7" | 7" | ⑤⑥ | |
| 4 | 21.2 | 09:00 | 0 | 14.0 | 1019 | N | 6 | | 5 | 3 | | | | | | |
| 5 | 22.2 | 09:00 | 0 | 16.7 | 1020 | ESE | 3 | | 2 | 3 | NNE | 4尾 | 3 | 3尾 | 10" | ① |
| 6 | 23.2 | 09:00 | 0 | 17.0 | 1018 | SW | 3 | | 2 | 2 | | | | | | |
| 7 | 24.2 | 15:00 | 0 | 14.7 | 1017 | SSE | 3 | 20.9 | 2 | 2 | NNE | | な | し | | ② |
| 8 | 25.2 | 17:40 | 6C | 19.0 | 1020 | NE | 2 | 21.4 | 1 | 2 | NW | 50"き69尾あら2尾だい4尾さんざな1尾 | | | | ③④ |
| 9 | 26.2 | 17:10 | 0 | 17.0 | 1019 | ESE | 2 | 21.9 | 1 | 1 | NNW | "75" | "11" | はたはた1尾あがら2尾 | | ② |
| 10 | 27.2 | 10:00 | 0 | 19.2 | 1015 | SE | 4 | 21.1 | 3 | 2 | SE | | な | し | | ② |

一次航海

2月25日、0125時に屋巻の820喜界島SW4里附近より30尋で操業開始SEの強風のため操業は極めて困難で約3時間調査するも漁獲なく島影を操業すべく湾沖合へ向う。湾沖3里附近で操業するもイナゴ6尾マツ2尾のみ1700湾底泊。

2月27日、時化。1000風向Wとなり早町港に避泊。

28～3月1日早町港避泊のまゝ。

3月2日、喜界新港操業。水深230尋で操業するも潮流速く縄立ち意の如くから操業不能、30.0m附近から西え寄ると急激に浅くなり150m位になる。こゝではイナゴ5尾を釣るのみ。潮流はNE、ヘタ寄りに約20分航走して200m 150mで操業したがマツ2尾イナゴ4尾だけであつた。

3月3日喜界島北端トビヨ崎N/W3里附近を調査するも魚探故障となり水深不明のまま操業するも縄居かず、湾沖3里附近移動するも餌付緩慢、SWの風波強まり1700早町港避泊に入る。漁獲マツ1尾、イナゴ6尾、アラ2尾。

3月4日、時化、早町港泊のまゝ。

3月5日、喜界島南端よりSW/W1.6里沖合水深150尋で操業潮流NNW流で比較的ゆるく縄立ははかつたが餌付は不良。正舌過ぎてから潮流に変じ速くなり15時頃は二重潮となり操業困難で餌付全くなし。餌料なくて1705吉仁屋に向う。

漁獲マツ3尾、ナビキ4尾、雜3尾。

3月6日、0925吉仁屋帰港

二次漁者

3月18日、03ル10m吉仁屋港、總1漁新曾根に向ふ。
10ル25m徳之島新曾根着操業するも漁全くなし。魚探故障のため意の如く、操業出来ず、加うるに時化模様となりたるため、5ル40m操業を止め、8ル00m籠徳避泊。

3月19日時化となり04ル45m籠徳発諸鉢鏡に向ふ。10ル00m諸鉢着板泊す。

3月20日時化避泊のまゝ魚探修理するも復旧せず。

3月21日02ル05m諸鉢発、喜界島源場に向う。07ル20mより喜界島SW/S6里附近操業するも餌付なし、13ル00m④漁場附近を移動し伏き500メートルへ700メートルのものや好漁あり。水深150～200尋潮流NNW/0ル-40m操業止め。20ル10m湾沖板泊。

3月22日、05ル25m湾底④漁場に向う。06ル50mより操業開始、潮流NNWにして血引ほつぼつ釣れる。午后下火となるも本日計約40尾を釣る。17ル50m操業止め、鴻板泊。

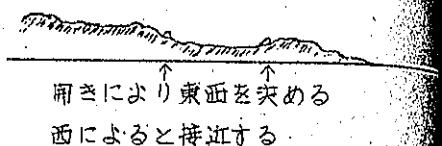
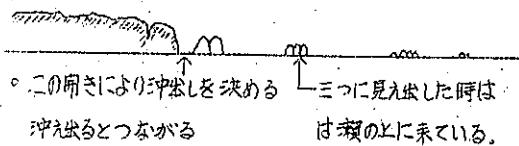
3月23日、05ル25m湾底、07ル00mより昨日附近操業するも潮流SEにして見込なし。午后天候悪くなり、朝後の操業を断念、13ル10m吉仁屋に向う。19ル30m吉仁屋入港

「漁場」について

※ 善界新港

善界島シツル崎 S 1.5 リンギであるため、山あてがとりにくく漁場の発見が容易でない。大島本島及喜界島は何れ高山がないのであってにくい。此のそねは相当広い。いわゆる尋度深い所で 350 寻内外であり、100 寻附近ではホタ、マツ、コブ等内外ではナビキの好漁があるといわれる。

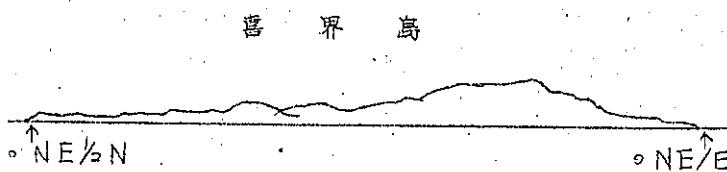
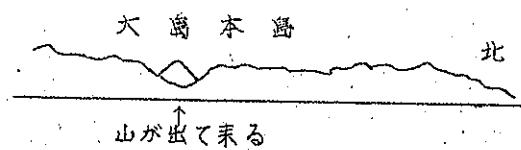
当地元業者の山アテによれば次図の通り。



※ 善界島トビヨ崎 N/W 3 リ

3 塚から沖に出るに従つて 180 寻、200 へ 220 寻、230 へ 240 寻の三段階に分れ、何れもナビキ漁があるらしいが本航海では探知出来なかつたので山あては無しである。相當潮流の速い漁場との事である。

※ 善界島南端 SW/W 1.6 リ



140 へ 150 寻、マツ、ナビキ タイ等の漁がある。

考 察

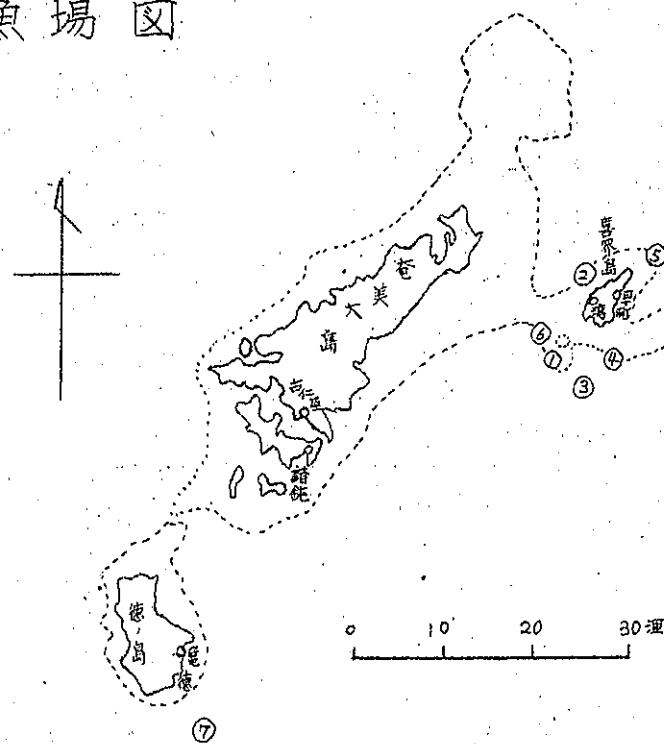
- (1) 荒天続きのため、退う旅に操業出来ず充分な調査は出来なかつた。
- (2) 初めての漁場のため地元業者の話を参考にして調査したが、途中魚探故障を起し意の如く調査出来なかつた。
- (3) オー一次航海は餌料として冷凍イカを鹿児島より購入した。地元で獲れるムロと併用。

る予定であつたが、ムロの漁獲がなかつたため鹿児島発送後、10日を経過した冷凍イカを使用した。既に歴史的そのため卸村は極めて悪かつた。

(4) 喜界新港は相当広範な漁場のため容易に好漁位置にあたりにくいが当れば、相当の漁が得られると地元業者は云つている。

(5) 喜界北やねでは昨年好漁があつたとの事であるが山当がきかない。潮の速い処らしいが、時期的に仰る時があると聞く。

漁場図



三重建網

漁業試験

趣旨

本郡には三重網漁業の操業者少く、又技術的にも進歩をみないので之等の奨励とアミラン網による漁獲増進を目的に、瀬戸内地区を主とした操業を実施し、併せて、本郡特産のリーフ地帶に適した漁具の改良を目的に試験操業する。

調査概要

調査区域 瀬戸内地区

期間 昭和31年1月20日～2月24日